BOOK WINDOWS

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

遺伝にまつわる誤解と迷信を科学的知見で打破する

『能力はどのように遺伝するのか ―「生まれつき」と「努力」のあいだ』

安藤寿康（名誉教授）著
講談社／1100円（2023年6月）

私たちは「天才」を目の当たりにすると、その卓越した才能を「遺伝」に結びつけたくなる。しかし彼らと私たちの遺伝子は99・9％まで同じなのだ。一方で「遺伝」と人の能力を結びつけて語る「優生学」などは現代では一種のタブーでもある。著者は遺伝という概念にまつわる「決定論的・宿命論的な、そしてしばしば悲観的なニュアンス」を「過去の先入観・偏見として打破しなければならない」と断じる。その上で行動遺伝学と心理学をベースに最新のゲノムサイエンスを参照しながら、社会的問題とも近接する遺伝の実相について近未来への予測も含めて解き明かしていく。

教職員執筆の新刊

◉保坂睦（湘南藤沢メディアセンター事務長）著
『はじめての電子ジャーナル管理 改訂版』
日本図書館協会／1980円（2023年6月）

◉須田芳正（体育研究所教授）ほか著
『ドイツサッカー文化論』
東洋館出版社／2200円（2023年7月）

◉齊藤邦史（総合政策学部准教授）著
『プライバシーと氏名・肖像の法的保護』
日本評論社／3740円（2023年7月）

◉七字眞明（経済学部教授）、山口祐子（同准教授）著
『はじめて学ぶドイツ語文法』
慶應義塾大学出版会／2640円（2023年7月）

◉足立修一（名誉教授）著
『続 制御工学のこころ―モデルベースト制御編』
東京電機大学出版局／3630円（2023年7月）

◉小川原正道（法学部教授）著
『福沢諭吉 変貌する肖像―文明の先導者から文化人の象徴へ』
ちくま新書／1034円（2023年8月）

慶應義塾この一冊

『日吉台地下壕―大学と戦争』

阿久澤武史（高等学校教諭）、都倉武之（福澤研究センター准教授）、亀岡敦子、安藤広道（文学部教授）著
高文研／2090円（2023年8月）

第二次世界大戦末期、日吉キャンパスに旧帝国海軍連合艦隊司令部などが置かれた巨大地下壕が作られた。本書の執筆者4名は市民の会として34年前に発足した「日吉台地下壕保存の会」の会員で、長年にわたりこの戦争遺跡の研究に取り組んできた。本書では沖縄特攻作戦で日吉司令部が果たした役割について考察し、また戦時下の学生の心の内を残された言葉から見つめている。義塾で学び、特攻隊員として戦死した一人の学生の足跡をたどり、また戦争遺跡の教育的活用の意義と展望についても提言している。

（価格は全て税込／編著者の職名は原則として発行当時のもの）